



2016年4月15日

株式会社テイツー (JASDAQ 7610)

2016年2月期 決算説明会資料



2016年2月期 振り返り

2016年2月期の課題

粗利減を前提としながら、コスト削減によって利益を確保する

個別業績については業績予想の必達・黒字転換

売上高・売上総利益の計画値を達成する

コスト削減策の実施 前期比5億円の削減

- ・店舗運営コスト(人件費・管理費)の低減
- ・販促手法の見直し・販促コストの低減
- ・固定的コスト(外部委託・手数料等)の低減
- ・その他(システム関連他)

上半期の注力ポイント

店舗運営、コスト削減等に向けた各計画が
通期で効果を生ずるよう、上期に確実に実施

下半期の注力ポイント

コスト削減を継続しつつ、黒字化を阻害しない
範囲で、売上拡大策を検討・計画・実施する

期首業績予想（参考値）に対する達成率

※連結業績予想については未公表のため、個別業績について表示

	期首予想	2016年2月期実績	予想比	
売上高	28,200百万円	⇒ 29,165百万円	103.4%	期初予想を上回る成果
経常利益	100百万円	⇒ 182百万円	182.0%	予想比大幅増にて終了

※当期純利益の業績予想は10百万円としておりましたが、子会社整理による特別損失のため△206百万円となりました

コスト削減の状況

	期首目標	2016年2月期実績	目標比	
	500百万円	⇒ 487百万円	97.4%	若干下回る

注力しているトレーディングカード、中古商材の進捗状況について

● 2016年2月期 売上高の状況

トレーディングカード売上高

新品 前期比 **146.1%**

中古 前期比 **182.2%**

前期より取り組んできた施策により売上拡大

- ・既存店へのトレーディングカードの拡大(トレカパーク開設)
- ・トレカ専門店の出店
- ・トレカFC店の開拓および卸売



中古商材売上高

中古商材 前期比 **103.4%**

今後も中古商材の取り組みを強化し、収益力拡大を目指す

次の成長に向けた布石

コスト削減や不採算店舗の閉店のみでは縮小均衡であり、一時的な黒字化は可能であっても市場全体が縮小する中では、将来的な成長が見込めない

そのため、黒字化を阻害しない範囲で下記の売上拡大策を検討・計画・実施する

※各施策については、前期から一部を既の実施しております

売場効率
改善

A 新商材 (ホビー、古着等) 取扱いの拡大

店舗数
拡大

B 自力での新規出店

C M&Aによる出店拡大の検討

その他

D 商材 (トレカ) の外販 (卸売販売)

「コレクターズ」商材導入による店舗の活性化、収益向上を目指し、店舗改修・出店を実施

フィギュア
ホビー

ふるほんいちば
古本市場
コレクターズ



●第4四半期 リニューアル店

2016年2月

古本市場 西陣店・泉大津店

新商材 **フィギュア
ホビー** → 既存店に導入

当期も、リニューアルオープン時のほか、
小規模改装でのホビーコーナー導入店を拡大

売上を着実に拡大し、既存商材とのシナジーも
創出



2016年2月末までの導入店舗 : 46店舗

店舗数の増加による利益の増加、固定コスト比率の低下を図る

● 古本市場 喜連西店 2015年10月オープン



「コレクターズ」商材の導入による収益性向上を目指した新規出店を実施



● トレカパーク 立川店 2016年2月オープン

東京都・立川のMEGAドン・キホーテ立川店内にトレカ専門店舗を新規オープン



好調が続くトレカをさらに強化し、収益拡大を図る

A vibrant yellow graphic announcing the opening of Treca Park. It features the word 'OPEN' in large, bold red letters, surrounded by colorful balloons and circular inset images showing the store's interior. The text '東京・立川にトレカパーク' is written in a curved banner at the top.

2016年2月5日、
東京・立川にトレカの専門店、「トレカパーク」が登場！
新規オープンの商業施設、「MEGAドン・キホーテ立川店」内にオープン！

最新・話題商品はもちろん、遊戯王・デュエルマスターズ・バトルスピリッツなど豊富な品揃えでお皆様をお待ちしております。

また、デュエルスペースも完備、さまざまな大会も開催！

トレカのことならお買い上げも買取も、トレカパークにお任せください！

当社商材の大きな柱となったトレカの更なる収益拡大を目指し、トレカのFC展開(卸売)を開始

- ほぼ直営店全店に、トレカパーク・コーナーの展開を完了
- トレカ専門店の出店により、トレカ単一商材での店舗運営ノウハウを蓄積
- 人財の育成も順調に進捗

※トレカ販売においては、中古買取のノウハウのみならず、売場の雰囲気も、新品販売の動向に直結するため、運営ノウハウも非常に重要

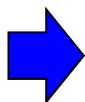
※当社トレカパークの一定の認知度・ブランド力強化が進んだため、収益性を高めるため一部の直営店は集約・統合を実施

運用支援(FC契約)

トレカ卸売

フランチャイズ加盟企業様

2015年2月末：4店舗



2016年2月末：17店舗

FCの開拓チャネルの開発も含め引き続き取り組みを強化

2016年2月期 比較損益計算書

●連結損益計算書

(単位:百万円)	2015年 2月期 (第25期)	2016年 2月期 (第26期)	増 減
売上高	29,420	29,236	△184
売上総利益	7,946	7,978	+32
営業利益	△327	3	+330
経常利益	△314	6	+320
当期純利益	△1,355	△149	+1,206
1株当たり当期純利益	△26円79銭	△2円95銭	

●個別損益計算書

(単位:百万円)	2015年 2月期 (第25期)	2016年 2月期 (第26期)	増 減
売上高	29,390	29,165	△225
売上総利益	7,946	7,974	+28
営業利益	△196	185	+381
経常利益	△199	182	+381
当期純利益	△1,432	△208	+1,224

売上高/売上総利益

期首想定通り、ゲームの下降トレンドにより売上高は減少したものの、新品・中古トレカの増収により、売上高は微減

中古商材取り組み強化により、全体では利益率が改善し、売上総利益は微増

営業利益/経常利益

売上総利益の増加に加え、コスト削減策の実施による販管費の大幅な低減効果により、黒字に転換

特に、本業の業況を示す個別決算については、明確に収益力が回復

当期純利益

前期比で赤字額は縮小したものの、不採算店舗の閉鎖及び子会社整理等に伴う特別損失を計上

売上高・売上総利益の状況

● 売上高

- (古本) ここ数年の取り組みにより、長期低落に歯止め。前期比99.4%と、ほぼ横ばい
- (ゲーム) 期初に想定した通り、主力商材である家庭用ゲーム市場全体の下降トレンドが継続
新品ゲームは前期比90.4%、中古ゲームは前期比99.0%
- (トレカ) 引き続き好調に推移し、新品が前期比146.1%、中古も前期比182.2%と大幅増

● 売上総利益

減収とはなったものの、売上構成比の変化(中古商材取り組み強化)により、利益率が向上し増加

営業利益/経常利益の状況

● 営業利益/経常利益

コスト削減策が順調に進捗し、販管費が大幅に削減されたことにより、連結・個別とも黒字に転換

当期純利益の状況

● 特別損失として以下の196百万円を計上

- ✓ 店舗関連・・・133百万円
- ✓ 関係会社関連・・・60百万円
- ✓ その他・・・3百万円

2016年2月期 比較連結貸借対照表

(単位:百万円)	2015年2月末		2016年2月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	6,546	68.9%	6,590	71.0%	43
現預金	2,017	21.2%	2,145	23.1%	127
売掛金	304	3.2%	290	3.1%	△13
商品	3,716	39.1%	3,709	40.0%	△7
貯蔵品	25	0.3%	21	0.2%	△4
その他	483	5.1%	423	4.6%	△59
固定資産	2,948	31.1%	2,693	29.0%	△255
有形固定資産	986	10.4%	862	9.3%	△123
建物及び構築物(純額)	519	5.5%	426	4.6%	△93
その他(純額)	466	4.9%	436	4.7%	△30
無形固定資産	220	2.3%	232	2.5%	11
投資その他の資産	1,741	18.3%	1,598	17.2%	△143
差入保証金	1,275	13.4%	1,183	12.7%	△92
投資有価証券、子会社/ 関係会社株式	222	2.3%	184	2.0%	△38
その他	243	2.6%	228	2.5%	△14
総資産	9,495	100.0%	9,283	100.0%	△211

(単位:百万円)	2015年2月末		2016年2月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
負債合計	5,863	61.8%	5,797	62.4%	△65
流動負債	3,366	35.4%	2,843	30.6%	△522
買掛金	724	7.6%	921	9.9%	196
短期借入金	700	7.4%	300	3.2%	△400
1年内長期借入金	1,033	10.9%	784	8.5%	△248
未払法人税等	19	0.2%	61	0.7%	42
その他	889	9.4%	776	8.4%	△112
固定負債	2,497	26.3%	2,953	31.8%	456
長期借入金	1,548	16.3%	2,020	21.8%	471
役員退職慰労引当金	0	0.0%	0	0.0%	0
その他	949	10.0%	933	10.1%	△15
純資産	3,631	38.2%	3,486	37.5%	△145
株主資本	3,636	38.3%	3,471	37.4%	△164
その他包括利益累計額	△6	△0.1%	5	0.1%	12
新株予約権	2	0.0%	8	0.1%	6
負債純資産合計	9,495	100.0%	9,283	100.0%	△211

主な資産の増減

現預金の増加: 減価償却費、買掛金増加
 建物及び構築物の減少: 減価償却費、退店
 差入保証金の減少: 退店

主な負債の増減

短期借入金の減少
 1年以内返済予定の長期借入金の減少
 長期借入金の増加

主な純資産の増減

株主資本の減少: 当期純損失

2016年2月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2015年2月期 (14/3~15/2)	2016年2月期 (15/3~16/2)
営業キャッシュ・フロー	△162	491
投資キャッシュ・フロー	△421	△105
財務キャッシュ・フロー	△128	△207
現金及び現金同等物の増減額	△708	177
現金及び現金同等物	1,883	2,061

営業キャッシュ・フローの内訳

(単位:百万円)	2015年2月期 (14/3~15/2)	2016年2月期 (15/3~16/2)
税引前当期純利益	△500	△188
減価償却費	328	262
たな卸資産増減額	97	11
仕入債務増減額	△362	197
法人税等支払額	△62	△24
減損損失	132	81
その他増減額合計	205	152
営業キャッシュ・フロー	△162	491

●営業キャッシュフロー

税引前当期純損失を計上したものの、減価償却費、仕入債務の増加等によりプラス

●投資キャッシュフロー

出店及び店舗改装、システム投資等によりマイナス

●財務キャッシュフロー

短・長期借入金の返済等によりマイナス

2017年2月期 業績予想

2017年2月期 業績予想

■連結業績予想

通期

(単位:百万円)	2016年2月期 実績	2017年2月期 予想
売上高	29,236	28,970
営業利益	3	175
経常利益	6	170
当期純利益	△149	100

上半期 (2016年3月～2016年8月)

(単位:百万円)	2016年2月期 実績	2017年2月期 予想
売上高	13,660	13,640
営業利益	△149	28
経常利益	△128	24
当期純利益	△206	1

下半期 (2016年9月～2017年2月)

(単位:百万円)	2016年2月期 実績	2017年2月期 予想
売上高	15,576	15,330
営業利益	152	147
経常利益	134	146
当期純利益	57	99

2017年2月期 配当予想

■中間実績と、期末・通期の配当予想について

当社は配当に関して、配当性向25%以上を目処として業績に応じた配当を安定的に実施することを基本方針としております

(単位:円)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
配当金	—	—	—	0.50	0.50
前期実績 (2016年2月期)	—	—	—	0.50	0.50

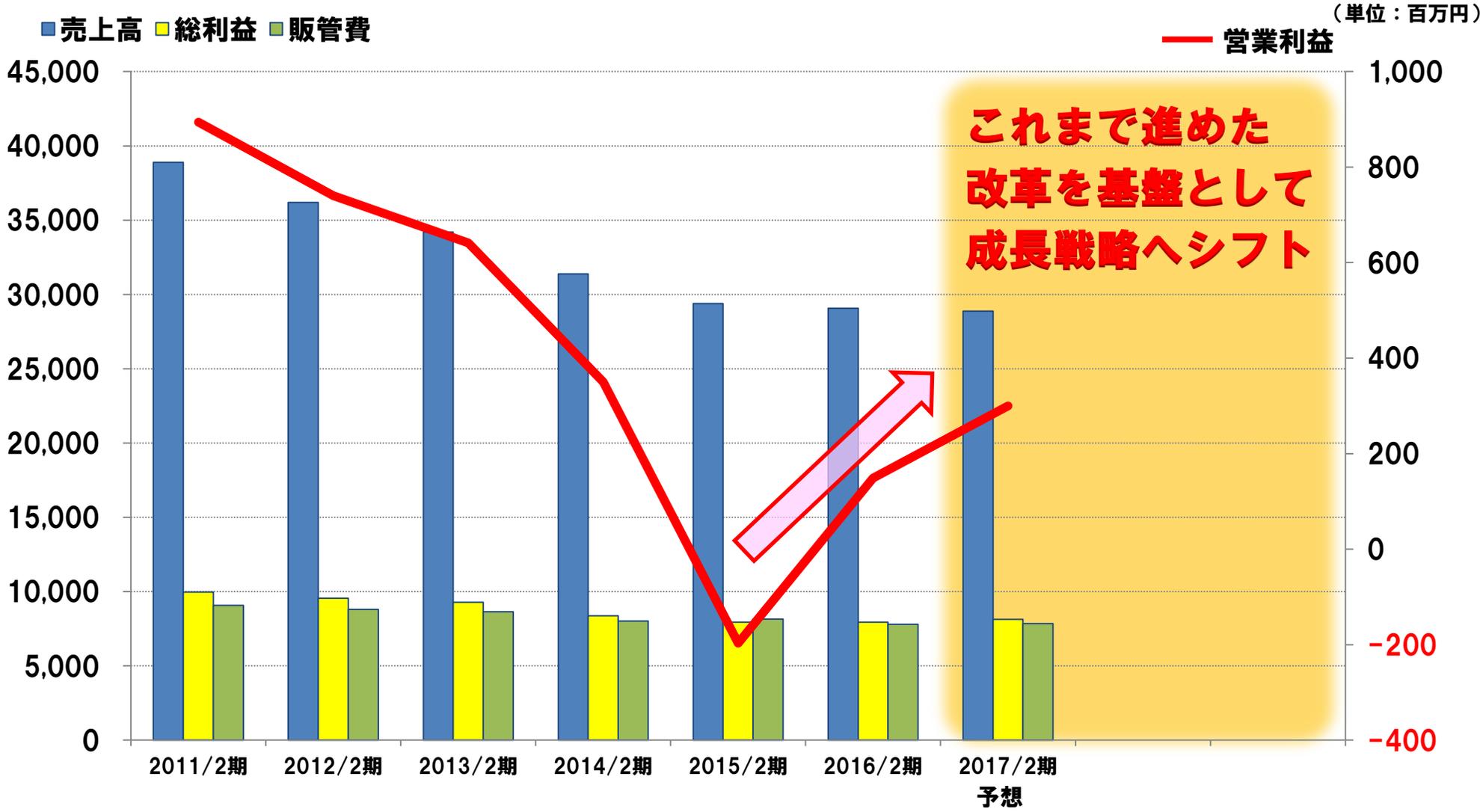
■配当性向の実績と計画

	第23期(実績)	第24期(実績)	第25期(実績)	第26期(実績)	第27期(予想)
	2012年3月－2013年2月	2013年3月－2014年2月	2014年3月－2015年2月	2015年3月－2016年2月	2016年3月－2017年2月
当期純利益	244百万円	△193百万円	△1,355百万円	△146百万円	100百万円
配当金	113百万円	80百万円	25百万円	25百万円	25百万円
配当性向	46.4%	—	—	—	25.1%

当期の取り組み

個別業績の推移

2015年2月期を底に業績は回復。当期からは成長戦略へと舵を切る



2017年2月期の経営テーマ

2015年2月期の経営テーマ

収益力・成長力の基盤強化と、コスト改革を組み合わせた強固な土台作り
次の成長に向けた揺るぎない土台の形成

2016年2月期の経営テーマ

粗利減を前提としながら、コスト削減によって利益を確保する
黒字化を阻害しない範囲で、次の成長に向けた布石を打つ

コスト構造改革と新商材成長を達成。過去の不採算事業も整理が完了

2017年2月期の経営テーマ

ローコストオペレーションの更なる取り組みと商材効率の強化
既存事業を基盤に、プラットフォーム事業の成長を図る

既存事業とプラットフォーム事業の両輪で走る

ローコストオペレーションの更なる推進と、商材効率の強化を継続

●既存事業の強化策

下降トレンドである商材をカバーすべく粗利貢献度の高い中古商材に注力する

- ・古本の強化・・・前期までに下落の止まった古本売上を、当期はプラスに転ずる
従来施策に加え、当期はコミック以外の分野にも注力
- ・中古トレカ・・・さらに大きな柱として育てるため、拡大策を維持
市場拡大に頼るのではなく、シェア拡大を目指した戦略を推進
- ・中古ゲーム・・・新品ゲームは減となるも、中古については維持
買い取り強化と回転率向上により前期並みを目指す
- ・中古ホビー・・・前期に大きく成長し、新たな商材として確立したホビーを強化
当期は専用POSをさらに50店舗に追加導入し、各店で売上拡大
- ・改装／出店・・・魅力ある店とするための改装に向け、前期以上に積極投資
店舗数の増加による利益の増加、固定コスト比率の低下を図る

「売上アップ」「効率化」「認知度向上」「ノウハウ構築」の全てにおいて強化

プラットフォーム事業

当社が培ったノウハウを基に、加盟店・企業様に対して支援可能な「もの」を
適宜提供し、様々な形での支援料収入を見込む
不足商品の供給、商品の買取という卸業務も必要により実施する

加盟店・企業様

トータル支援

(必要に応じて卸売業務も行う)

商品マスター

売買価格

備品

商品

POP

マニュアル

人員

POS

商品

買取

各種データ・情報

人・もの

各種支援に
応じた料金

ティーツープラットフォーム

トレカのFC展開(卸売)を開始

- トレカビジネスのノウハウ → 130の店舗網の展開力
- トレカ自動査定システム『ピタカ』 → 簡単&スピーディー
- クラウドPOS『ピタポ』 → 低コスト化
- トレカ自動販売機『トレオート』 → 業界初



前期比158%の成果を外販へ注力

2016年2月末:17店舗 ➡ 目標100店舗



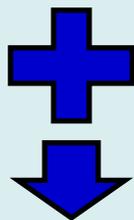
BtoBの取り組み拡大を加速

古着事業パッケージのモ・ジール店舗を進化

テイツーに吸収することにより経営リソースを注入すると同時に、全社の効率化を図る

リユースを軸に

アパレル



生活雑貨

新たな複合パッケージ



MCZEAL
REUSE STYLE | USED FASHION



事業が交わることによる当社の新たな成長

既存事業を基盤に、プラットフォーム事業の成長に取り組む

既存事業とプラットフォーム事業
それぞれの成長



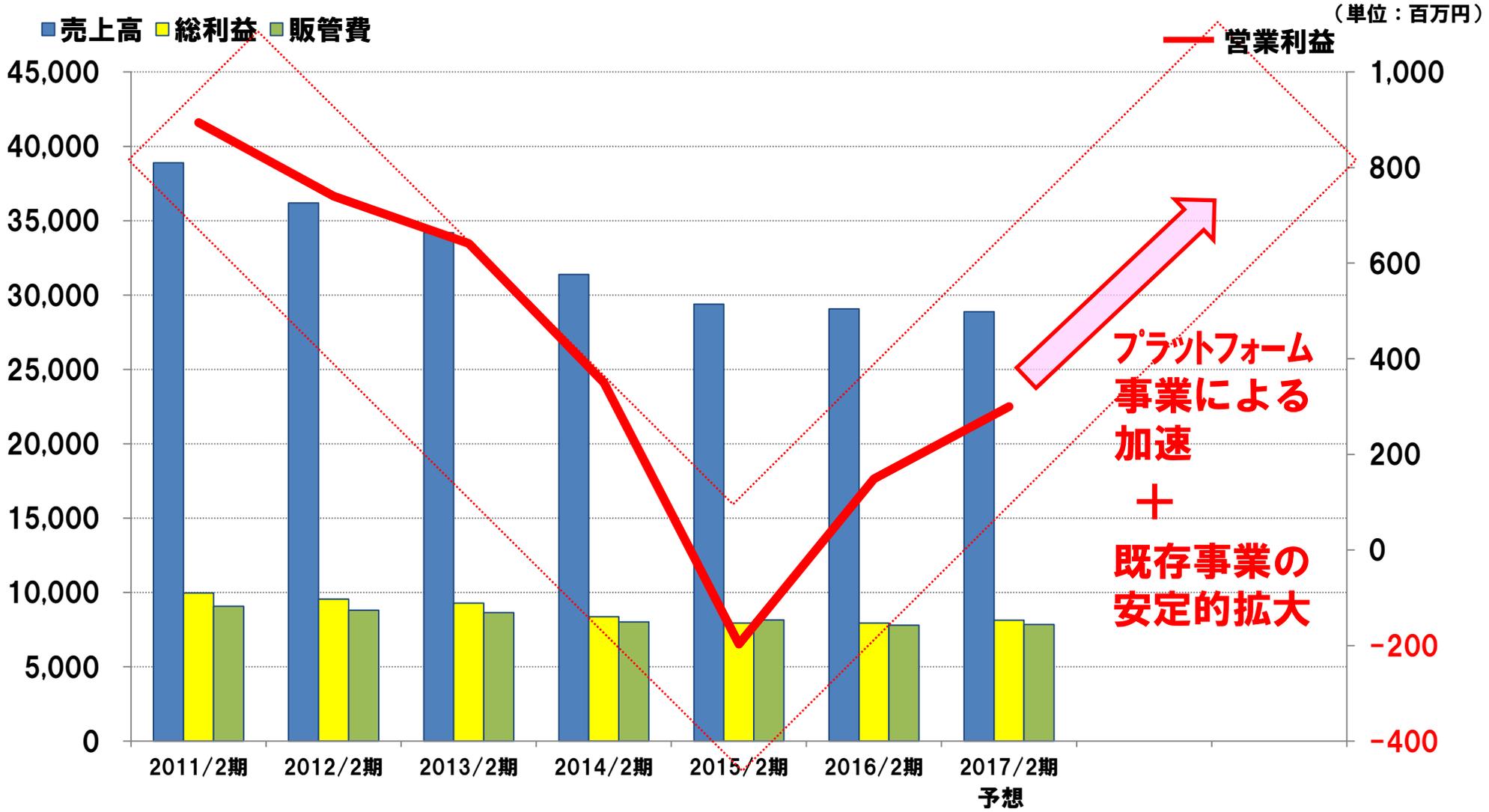
既存事業

新たな成長へ

プラットフォーム事業

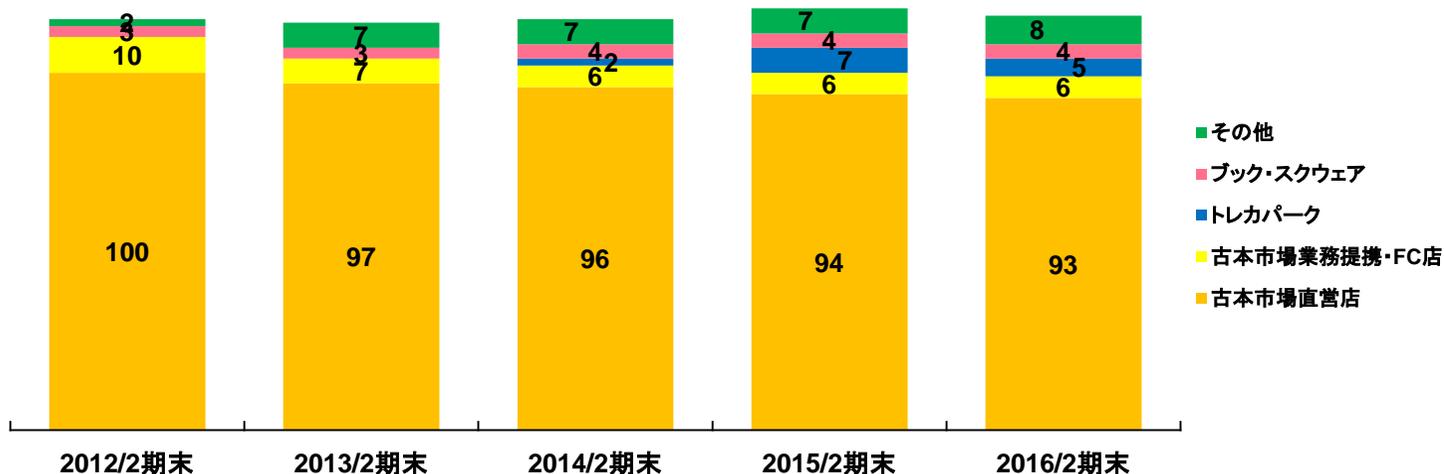
既存事業とプラットフォーム事業
の相互連携が産み出す成長

新たな成長を目指して



参考資料

〔ご参考〕2016年2月期 店舗の状況



	2015年2月期		2016年2月期			増減数
	期末	出店	退店	期末		
古本市場直営店	94(1)	1	2	93(1)	△1	
古本市場業務提携・FC店	6	1	2	5	△1	
トレカパーク	7	1	2	6	△1	
ブック・スクウェア	4(1)	—	—	4(1)	—	
3Bee	2(2)	—	1	1(1)	△1	
MO-ZEAL	1(1)	2	—	3(2)	2	
TSUTAYA(単独店)	2	—	—	2	—	
Family Mart	2	—	—	2	—	
合計	118(5)	5	7	116(5)	△2	

※カッコ内はTSUTAYA併設店となります。

会社概要

社名	株式会社テイツー（英訳名 TAY TWO CO.,LTD.）
設立日	1990年4月16日
上場日	1999年9月14日：JASDAQ
本社	岡山県岡山市北区今村650番111
東京本部	東京都品川区西五反田7-1-1住友五反田ビル5F、6F
代表者	代表取締役社長 寺田 勝宏
事業内容	1.古本、家庭用ゲームソフト・ハード、トレーディングカード、CD、DVD等の新品及びリサイクル品の販売・買取及びビデオレンタル業務、コンビニエンスストア「Family Mart」の運営 2.インターネットサイト「フルイチオンライン」の運営
従業員数	正社員 287人、パート・アルバイト 1,375人 計1,662人（2016年2月末現在）
資本金	1,165百万円（2016年2月末現在）
発行済株式数	52,640,000株：1単元100株（2016年2月末現在）
株主数	6,339名（2016年2月末現在）

満足を創る

本資料は2016年2月期の業績並びに2017年2月期の業績予想及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は2016年4月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

IR窓口：管理本部 経営企画部

TEL03-5719-4775 FAX03-5719-4583

E-mail: ir@tay2.co.jp

URL: <http://www.tay2.co.jp>